



Higashi Sapporo
Hospital's
Newsletter MADO

April 2022 No.109

第3回・第4回合同 がん緩和ケアに関する国際会議の 開催延期のお知らせ

The International Research Society of the SCPS

理事長 石谷 邦彦

2022年7月21日から3日間の日程で開催を予定しておりました第3回・第4回がん緩和ケアに関する国際会議(3rd&4th Joint SCPS)ですが、残念ながら延期のお知らせをしなければなりません。

懸念されていたCOVID-19 pandemicが世界的にも収束の傾向にあり、演者、参加者の皆様に日本への入国許可の条件(3回目ワクチン接種と当事務局からの招請状)の説明と飛行機などの手配のお勧めをしようとしていた矢先に、ロシアのウクライナ侵攻が始まりました。全世界がさらなる大きな戦争に拡大する危惧を抱いております。例えば今は、第3次世界大戦も予測される現況であり、世界が危険に曝されております。

このような状況について実行委員会はsenior advisory committeeの数人の方々の意見を参考に来年2023年の春までの延期を決定いたしました。どうぞ実行委員会の苦衷をお察し頂き、ご了承をお願い申し上げます。

新たな日程を早急に定めお知らせいたします。プログラムの内容は現在の企画で開催いたしたいと思っております。なお、ご登録済みの参加登録に関しましては、改めてお知らせいたします。

お忙しい皆さまと承知しておりますが、万障お繰り合わせの上、ご参加をお願い申し上げます。

P2に、開催延期に際し、演者としてご参加予定の先生方から寄せられたメッセージを掲載しています。

Higashi Sapporo Hospital
医療法人
東札幌病院

2022年4月発行
発行責任者/病院長 西山正彦
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
TEL.011-812-2311(代表)
FAX.011-823-9552
E-mail: info@hsh.or.jp
HP: http://www.hsh.or.jp

第3回・第4回合同がん緩和ケアに関する国際会議 開催延期に際し、寄せられたメッセージ

Without a doubt, you have made the right decision. That said, this is all so sad and tragic. When you think about the wonderful connections between international colleagues and our sense of shared purpose, it seems unfathomable that sustained global peace is so elusive. I pray for the day when we can meet, share a meal, exchange academic insights and celebrate our shared humanity. Hoping beyond hope that that day comes soon.

Harvey Max Chochinov

I am sorry to learn about the cancellation since I was looking forward to visiting your beautiful country and meeting again with many Japanese colleagues. We will certainly be there the following Spring and please extend my gratitude and sympathy to the organizing committee for trying hard to continue this important event.

Eduardo Bruera

I perfectly understand the decision of the executive committee, and I do hope that the political situation will quickly improve, in order to avoid the worst. Of course, I remain ready to give my lecture in 2023; I'm really honoured to have this opportunity to participate, and I will be very glad to meet you next spring.

Sarah Dauchy

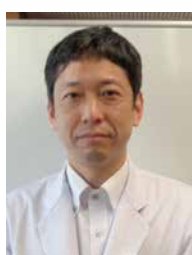
I understand the reason for the postponement. I will be happy to provide the lecture in spring 2023 when, perhaps, our situation will be clearer and our world at peace again.

Philip Larkin

同様のメッセージを他の演者の方々からも頂戴しております。

新任医師自己紹介

2022年4月に当院に着任した5名の
医師を紹介します。



放射線科部長
堀 正和

皆様こんにちは、放射線科の堀と申します。一昨年度まで大学(札幌医科大学放射線医学講座)に在籍しており、その時は非常勤として当院の放射線治療に関わらせていただきました。顔見知りのスタッフに囲まれて4月からすんなりと勤務に入れましたこと、感謝しております。学生時代はゴルフ部に所属しておりまして、先輩である大村先生、東医体でキャディーをつとめていただいた後輩の小野薫先生と一緒に仕事ができることに、ご縁を感じております。

私は生まれも育ちも札幌で、大学も札幌医大(48期生)です。一昨年度まで大学勤務でし

たが、昨年1年間は函館五稜郭病院の放射線治療科に所属しておりました。

当院の放射線治療装置、治療計画装置は決して新しいとは言えませんが、性能をフルに発揮できていない部分もまだまだありますので、技師さん、看護師さんと情報を共有しながら、安全な放射線治療を提供できるよう、体制を整えていけたらと思っております。今後ともよろしく願いいたします。



消化器外科部長
木村 仁

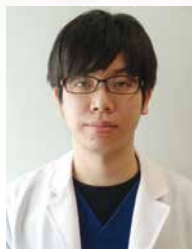
今年の4月1日に着任しました消化器外科の木村です。平成6年に札幌医大を卒業し、外科学第1講座、現在の消化器・総合、乳腺・内分泌外科に入局しました。以後、札幌市内、紋別市、滝川市、芦別市などの各関連病院で消化器外科・一般外科に従事してきました。手術以外にも中心静脈ポート留置や各種IVR治療なども経験しており、こちらでも貢献できればと思います。

東札幌病院では、緩和外科も兼任いたします。伝統があり体系化された当院の緩和医療

を学びながら、患者様やご家族の希望に沿った外科治療を心がけていきます。

外科の長谷川先生、久慈先生をはじめ、他科や全ての医療スタッフと協力し、東札幌病院の理念である『医療の本質はやさしさにある』を実践していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

新任医師自己紹介

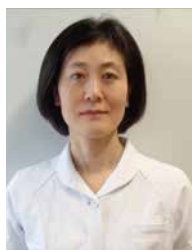


血液腫瘍内科科長
小野 賢人

今年度から内科に着任いたしました小野賢人と申します。診療は血液腫瘍内科を中心に携わらせていただくことになります。

これまでは旭川、留萌、伊達、札幌、苫小牧とさまざまな土地で勤務してまいりました。血液腫瘍内科は化学療法が中心になる診療科ではありますが、地域によって医療体制が異なる

ため、同じ疾患であっても治療方法は個人個人で異なります。そのため、患者皆様と相談をしながら、生活に沿った治療を提供できるように努めてまいりたいと思います。また、緩和ケアにも携わらせていただくことでより多くのことを学んでいきたいと思っています。よろしく願いいたします。

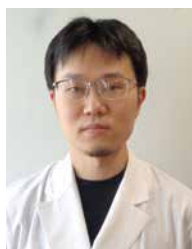


外科医長
久慈 麻里子

みなさんはじめまして。この4月より外科に着任しました久慈麻里子です。北海道大野記念病院からまいりました。

出身は札幌市で、自治医科大学を卒業しました。離島や海辺の村などのいわゆる僻地での地域医療も経験しましたが、義務年限終了後は消化器外科医として主に胃や大腸、胆嚢などの消化器疾患の診療に携わってきました。ほとんどが手術が必要な急性期の患者さんでしたが、東札幌病院では急性期の患者さん以

外にも緩和ケアが必要な患者さんが多く、今までとはまた違ったアプローチが必要になることも多くなるのでは、と思われまます。しかし、私自身は緩和医療に関してはまだまだ知らないことも多く、皆さんにいろいろご迷惑をおかけすることもあると思いますが、少しずつ勉強していつか微力ながら当院のお役に立つことができれば、と考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



内科医長
佐賀 潤也

4月1日より東札幌病院に着任いたしました佐賀と申します。札幌医科大学を卒業後に苫小牧、室蘭、留萌で消化器内科として勤務し、内科の一般的な疾患から消化器疾患、各種癌、内視鏡による検査治療などを主に担当しておりました。出身は札幌ですが医師になってからのほとんどを上記の地域で過ごしてまいりましたので、久しぶりに地元に戻るとお店や建物がかなり変わっていて驚いています。新幹線も札幌までつながるようで、今後ますますの発展を楽しみにしています。

東札幌病院は緩和ケアに注力している病院ですが、緩和ケアのみに限らず医療で大切なのは患者様との対話だと考えています。患者様とお話しする中で悩みや不安、要望をしっかりと把握し、それに沿った医療を提供できるように努めていきたいと思っています。

若輩者かつ不慣れな点多々あり、みなさまにはご迷惑をおかけするかと思いますが、少しでも早く当院の医療に貢献できるよう努力いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

石谷理事長の スキー 讃歌

その27

特別寄稿

老人と山スキー

芳賀孝郎

私は85歳を過ぎても山スキーを楽しんでいた。それは良き仲間にも恵まれたことである。山スキー仲間と神に感謝している。

山スキー登山の出発前に、リーダーは今日の行動予定と注意事項など説明する。その後ビーコンのチェックをする。私がビーコンを初めて使用したのは東京から札幌へ帰った2011年の冬であった。

ビーコンには、雪崩に埋まった時、ビーコンが発信して埋まった場所を知らせる機能があり、更に、埋まった人から発信される音をキャッチする機能も持っている。リーダーは仲間のビーコンが正常に機能しているかを出発する前に確認する。ビーコンをチェックする時必ず「芳賀さん、今日の体調は如何ですか」と聞かれる。それに対して挨拶を交わし、「体調は良好です」と答える。しかし毎回リーダーから親切に同じ挨拶をされると、「そろそろ山スキーをお辞めになっては」と私には聞こえてくる。これが老人のひがみ根性である。

雪崩に埋まった場合、ビーコンによる助かる確率ほどの程度か。更に埋まった人を助ける割合はどうかと考える。まずは、雪崩に遭遇しないよう万全を期すことが第一と私は思っている。

私はまだ山スキーを楽しむ体力も技術もあると思っている。しかし深雪で転倒すると自力では起き上がれない。必ず仲間の手助けが必要である。その時自分の体力のなさや老いを痛感する。そこで自信を失い、山スキーの限界を知らされて悩む。

ところが山スキーが無事終わり、リーダーと仲間にお世話になったお礼をする。お互い晴れ晴れとした気持ちになり、今日の上りと下りのコースの取り方、雪質などについて楽しく語り合うのである。

仲間の一人から「芳賀さんを目標に85歳まで山スキーを励みます」と言われる。その言葉を聞くと、転倒した時の気持ちを忘れ、未だ未だ山スキーはできると思いきみ、私の気持ちはプラスの方向へと進む。その時、自分の気持ちは老いを忘れていた。その自分自身の浮かれた気持ちにあきれる。

リーダーが毎回私の体調を心配してくれる。親切な挨拶を素直に感謝しない老人山スキーヤーは反省するところが多い。

私は80歳を超えてから転倒することが多くなった。それはスピードのコントロールが敏速にできなくなったこと。斜面に対しての恐怖感が年々強く感ずるようになり、転倒しなくても良いところで転倒するようになった。これは体力と気力が減少した証拠である。

私が2012年札幌へ帰った翌年、新型の山スキー一式を購入して新しい山スキー術を習い、希望を持って山スキーへ挑戦した。私は雪山の斜面を眺めると、その斜面をどのようなコースで滑るか頭に描いて喜んでいた。しかし80歳を過ぎると挑戦の気持ちは少なくなり、自分の年齢を考えるようになった。まさしく老人山スキーヤーである。



▲ 2017年2月5日の十勝三段山

山スキーへ行くとき、仲間の車が私の家に迎えに来てくれる。女房が出て「よろしくお願ひします」と仲間へ挨拶をする。帰って来ると「いろいろお世話になりありがとうございました」とお礼をする。これはまさしく私が「デイサービス」へ出かけるようだとされた。

いろいろ言われても深雪を滑る魅力ある山スキーは辞められない。仲間の迷惑をかけないで山スキーを楽しむにはどうあるべきかと考える。

私が信頼する山スキーのリーダーが、数年前不運にも大雪の黒岳で遭難死した。慎重で用心深いリーダーが山スキーで滑落死するとは考えられない。私は、そのリーダーの行動と気配りに比べると自分が先に遭難しそうな輩と思う。その後の山行は、リーダーの冥福を祈りながら出かけている。

これからの人生を私は自然なスタイルで生きたいと考えている。しかしそうは簡単にいかない。山スキーについては無理しないこと、仲間に迷惑をかけないこと、自然の脅威を忘れないことを心掛けている。ところが素直に人々からの親切、援助を受け入れない何者かが時々私の心の中に現れるのが問題である。それは今までの登山経験で、自分でできるものは自分でする習慣が身につけていることが影響していると思う。自分が本当に老人であることの意識が不足しているのである。

風のように、川の流れるように自然に身を任せるようになりたいと願っているが、性格は簡単には治らない。

老人になり、謙虚に人の世話になる気持ちを持ちたいものだ。今までの性格を直すことは困難であり、そうなるには時間が必要と思うこの頃である。

今年85歳で車の運転を辞めた。山スキーを辞めることは、運転を辞める以上に悩むのである。



2019年10月記

「私の敬愛する芳賀孝郎氏は、札幌西高等学校、西ロータリークラブの先輩であり私の患者でもある。」 石谷邦彦

芳賀孝郎 略歴

1934年	札幌生まれ
1953年	札幌西高卒業
1958年	学習院大学政経学部卒業
1959年～1991年	株式会社ハガスキー
1992年～2008年	株式会社エイジス
2008年～2011年	社会福祉法人斎信会 札幌西ロータリークラブ会長 日本スキー工業会副会長 社団法人日本山岳会副会長 社団法人日本山岳ガイド協会認定・上級山岳ガイド
1966年～2010年	各国山岳会訪問 アメリカ・イギリス・カナダ・イタリア・ポランド

主な登山歴

1955年	学習院山岳部 唐松岳・五竜岳・立山・一ノ越・五色ヶ原
1956年	学習院大学山岳部リーダー 槍ヶ岳・北鎌尾根千丈沢側壁登攀・小槍 ^{とうぼん} の登攀
1957年	冬期五竜・鹿島槍ヶ岳の登攀、横尾尾根より槍から西穂高岳への積雪期初走破 北穂高岳北壁と滝谷第二尾根登攀
1958年	日本山岳会入会 白馬岳主稜登攀 京都大学士山岳会チョゴリザ登山隊に参加、7,200mまでサポート チョゴリザ6,400m地点でヘルマン・プールのテント発見 チョゴリザ登山後、平井一正と芳賀孝郎、パルトロ・ムスターグタワー・ピアンジェ氷河の偵察と5,400mBCより7,170m峰へ 日本人による7,000m峰最初のアルパイン登山の記録ラッシュアタックで7,120mまで到達、最後の岩峰で撤退
1960年6月～1964年5月	日本山岳会東京支部委員 集会担当・山岳指導員
1985年6月～1991年1月	日本山岳会北海道支部副支部長
1990年	学習院チベット登山隊隊長チョーオユー登頂、6,800mまで登る
1996年8月	学習院アルバータ登山隊に参加、アルバータのピッケルの合体式を行う
2000年8月	日本・カナダ山岳会の共同のアルバータ登頂75周年記念事業開催 「この山に呼ばれて」カナダ山岳会の英語版、日本語版を担当
2006年8月	米国、レーニア山
2001年～2011年	日本山岳会で皇太子殿下のお世話役を11年間務める
2012年1月～	北海道支部の仲間と登山・山スキーを継続
2016年1月	「私のシュプールI」を出版

外来医師スケジュール

(2022年4月1日～)

診療時間		月	火	水	木	金	土
午前 9:00～12:00	1診	鳥本 (内科初診/再診)	鳥本/小野(賢) (内科初診)	鳥本 (内科初診/再診)	鳥本 (内科初診/再診)	鳥本/小野(賢) (内科初診)	交代制
	2診	石谷	石谷	石谷	三原	三原	
	3診	日下部	伊藤	渡邊(奈)	長岡	日下部	
	4診	久村	平山	平山	平山		
	5診	高木	古谷	高木	秋津	秋津	
	6診		木村 (外科初診/再診)	呼吸器内科 (出張医)	木村 (外科初診/再診)	整形外科 (出張医)	
	7診	長谷川 (外科初診/再診)	大村	空閑 (外科初診/乳腺・甲状腺)	大村	長谷川 (外科初診/再診)	
	8診 (発熱者対応)	照井	伊達	照井	照井	照井	
	9診 (発熱者対応)			佐藤 (病をよく識る外来)		西山 (セカンドオピニオン外来)	
	放射線治療	堀	堀	堀	堀	堀	
	内視鏡	伊藤	長岡	日下部	渡邊(奈)/佐賀	安保	
	腹部エコー			三谷			
口腔外科	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水		

診療時間		月	火	水	木	金	土
午後 14:00～17:00	1診 (内科初診)	鳥本/照井	鳥本/照井	鳥本/照井	鳥本/照井	鳥本/照井	休診
	2診		小野(賢)	小野(薫)	小野(賢)		
	3診	長岡	渡邊(奈)	佐賀	伊藤	佐賀	
	4診	中村		町野	町野	中村	
	5診	秋津	三原	井須	高木	脳神経内科 (出張医)	
	6診 (外来初診)	長谷川/木村 (手術のため緊急対応のみ)	長谷川 (手術のため緊急対応のみ)	長谷川/木村 (手術のため緊急対応のみ)	長谷川 (手術のため緊急対応のみ)	長谷川/木村 (手術のため緊急対応のみ)	
	7診		大村	大村		久慈	
	8診 (発熱者対応)	三谷 (13:30～)	出張医 (13:30～)	出張医 (13:30～)	出張医 (13:30～)	三谷	
	9診 (発熱者対応)						
	放射線治療	堀/出張医	堀	堀	堀/出張医	堀/出張医	
	内視鏡	渡邊(奈)/佐賀	日下部	長岡	出張医	伊藤	
13:30～17:00	口腔外科	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	
14:30～16:30	発熱外来 (院外)	仮設診察室	仮設診察室	仮設診察室	仮設診察室	仮設診察室	

※外来受付時間 月曜日～金曜日8:30～17:00 土曜日8:30～12:00

※土曜日は交代制となっております。詳細はお問い合わせください。

※当院では、待ち時間短縮のために予約制を導入しております。予約外診療も行って
おります。詳細は受付にお問い合わせください。

※禁煙外来(要予約) 木曜日・金曜日11:30～12:00 担当医師:秋津

※病をよく識る外来(要予約) 水曜日9:00～12:00 担当医師:佐藤

※セカンドオピニオン外来(要予約) 金曜日9:00～12:00 担当医師:西山

※石谷外来 火曜日9:00～11:00

※外科外来は、手術等により診療時間が変更となる場合があります。

※緊急対応等に備え、内科医師1名は13:30から待機いたします。

※現在多くの発熱患者さんがいらっしゃいます。当院では、期間限定で体温37℃以上
の方をまず8診、9診にご案内し、抗原検査を受けていただくこととしております。
感染制御のため必要な対応であることご理解願います。院外プレハブの発熱外来
は、感染状況に伴い流動的に運用いたしますので、ご留意願います(要電話予約)。



医療法人東札幌病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院2 3rdG: Ver.2.0）の認定を受けています。

■認定期間
2020年9月26日～2025年9月25日



日本医療機能評価機構
認定第 JC669 号

一般病院2 3rdG:Ver.2.0



●交通のご案内
地下鉄東西線「東札幌駅」より
徒歩5分

駐車場について

当院の駐車場はゲート式になっております。駐車場ご利用の方は、受付または事務室にて駐車券をご提示ください。ご利用料金は以下の通りです。

ご利用料金

外来受診・お見舞いなど、当院ご利用の方は、3時間無料です（以後30分50円）。

Higashi Sapporo Hospital

医療法人 東札幌病院

〒003-8585
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
電話 011-812-2311 (代表)
FAX 011-823-9552
E-mail: info@hsh.or.jp
HP: <http://www.hsh.or.jp>

東札幌病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重致します。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名・検査結果、受ける処置やケアの内容等について十分な説明を受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援されます。
5. 身体的なことだけでなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育をうけることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

東札幌病院を受診される皆様に御協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝え下さい。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問して下さい。
3. 治療やケアの方針を決めるときには、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加して下さい。
5. 院内では常識的な社会人として行動して下さいようお願いいたします。
6. 東札幌病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 東札幌病院では各階に提案箱を設置しております。ご意見やご要望がありましたらご遠慮なくご利用下さい。